

令和6年度 熊本市立粟生小学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担者	【評価指標】 <成果指標><努力指標> <満足度指標>	【評価の根拠】 達成度評価基準	取組状況 (中間評価)	評価	今後に向けて	取組状況 (最終評価)	評価	来年度に向けて
組織的な 学校運営 (チーム 児童生小)	【安心・安全な学校づくり】 全教職員協力のともじりめ、不登校等の未然防止と早期発見、組織的な対応に努める。	教頭	(努力指標) 未然防止に向けた教師による児童の居場所づくりと、いじめ等記録シート、欠席状況共有アプリ等を活用した情報共有の対応に努める。取組の徹底を図る。終礼後に、児童情報を共有化する時間をとる。	児童が安心・安全で、楽しいと思える学校となること。できたもの、児童アンケートの回答結果は86%であった。 A: 毎月共有化の時間をとった(90%) B: 学校は安心・安全で楽しい(90%) C: ほぼ毎日共有化の時間をとった D: 学校は安心・安全で楽しい(80%)	必要な情報の共有化の体制を整える。いじめ等に関するアンケートの回答結果は86%であった。対応に体制を強化する。	B		いじめ、不登校の未然防止に向けた組織的対応ができてきた。学力向上ロードマップの進捗率は100%であった。児童アンケートの回答結果は86%と目標との50%には届かなかった。7月時と目標に異なしている点について、児童が人存在。保護者を巻き込み、不登校の未然防止に努める。特に、いじめ防止に努める。	B	組織的対応はできていて安心・安全な学校運営はできている。いじめ防止に努める。児童が安心して学校生活を送れるように努める。
	【共通理解と共通行動】 学力向上ロードマップを用いてPDCAサイクルを実践させること。組織的で効果的な学校運営を実現させる。	各主任	(成果指標) 主任会議において、学力向上ロードマップに基づいた取組状況の確認。検証・改善案の協議、共通行動の具体的な実践に取り組みしている。	学力向上ロードマップをもとに、組織的に自分の役割を認識し、実行すること。できた。A: 月単位の協議、進捗ができた(90%) B: 月単位の協議、進捗ができた(80%)	ロードマップを各主任ごとに役割、すべり取組を遂行すること。できた。A: 各主任が自分の役割を認識し、実行すること。できた。B: 月単位の協議、進捗ができた(90%)	主任会でロードマップを基にした、月単位の協議。マーカーでチェックすることを確認し、それぞれの主任の振り返りにして、相互にフィードバックする機会を加える。	A	主任会で、それぞれの主任の振り返りにして、相互にフィードバックする機会を加える。月単位の協議、進捗ができた。PDCAサイクルの活用が確認された。	A	学力向上ロードマップを用いてPDCAサイクルを実践させること。組織的で効果的な学校運営を実現させる。
	【業務改善とワークライフバランスの確立】 各教職員の専門性を生かし、適切な時間割を行いチームワークとして業務を遂げる。	教頭	(努力指標) 「専任教員による業務の平準化。」「教員にチームワークを活用し、効率化を促す(①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)業務の見える化に取り組む。	業務改善の具体的な実践ができた。A: できた(100%) B: できた(90%)	業務改善の具体的な実践ができた。A: できた(100%) B: できた(90%)	職員から出た業務見直し案を検討し、実現する。業務改善の具体的な実践ができた。A: できた(100%) B: できた(90%)	C	職員から出た業務見直し案を検討し、実現する。業務改善の具体的な実践ができた。A: できた(100%) B: できた(90%)	C	業務改善の具体的な実践ができた。A: できた(100%) B: できた(90%)
2 学力 の 育 成	【授業改善】 学ぶ楽しさを実感し、自ら考え、みんなで学びを深め合うことができる児童を育成する。	研究	(努力指標) 「目標を達成した児童の数を想定し、対話授業を意図的に実践する。」「学びを生かす対話授業を意図的に実践すること。児童に学びの楽しさを実感させる。	対話授業を意図的に実践した。・友達と関わることで学びが深まった。教師 実施状況 児童アンケート 授業の楽しさを実感した。A: できた(90%) B: できた(80%以上)	対話授業の具体的な実践ができた。A: できた(90%) B: できた(80%以上)	C	対話授業の具体的な実践ができた。A: できた(90%) B: できた(80%以上)	対話授業の具体的な実践ができた。A: できた(90%) B: できた(80%以上)	C	学ぶ楽しさを実感し、自ら考え、みんなで学びを深め合うことができる児童を育成する。
	【GIGAの推進と学習環境の構築】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を意図し、ICT活用を効果的に活用し学習環境の在り方を模索する。	教務	(成果指標) 「目標達成に向けた学習活動において、学習内容・方法を自分で自己決定する力を育成する。	学習内容・方法を自己決定するよう指導した。教師アンケート A: 80%以上 B: 70%以上	個別アンケートではなく、指導計画・実践記録の活用。毎時、児童が自由に選択できるような学習の仕方を模索する。A: 80%以上 B: 70%以上	1学期、ICTを活用した授業実践ができた。この実践を参考に、授業改善に取り組む。ICT活用を効果的に活用できる場面を模索していく。	B	ICTを活用した授業実践ができた。この実践を参考に、授業改善に取り組む。ICT活用を効果的に活用できる場面を模索していく。	B	GIGAの推進と学習環境の構築。
	【基礎基本の定着】 授業、補充学習、家庭学習等を通じて、基礎基本の定着、活用力の育成を図る。	学習指導	(成果指標) 授業における学習内容と補充学習。家庭学習の内容を把握し、指導する。定着している児童の割合を把握する。	基礎基本の確かな定着が見られた。A: 80%以上 B: 70%以上	基礎基本の確かな定着が見られた。A: 80%以上 B: 70%以上	全校で、前学年やタイムで学習内容を定着させ、振り返りを行う。基礎基本の定着を図る。	A	基礎基本の確かな定着が見られた。A: 80%以上 B: 70%以上	A	基礎基本の定着。
3 徳 (豊かな 人間性 の育成)	【安心・安全な授業づくり】 生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを推進する。	生徒指導	(努力指標) 生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを推進する。	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを推進した。A: 実践した100% B: 実践した80%以上	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを推進した。A: 実践した100% B: 実践した80%以上	B	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを推進した。A: 実践した100% B: 実践した80%以上	B	安心・安全な授業づくり。	
	【自治・自主の精神の育成】 児童主体の児童会議、学級活動を通して主体性・協働性を養う。	生徒指導	(成果指標) 児童主体の児童会議、学級活動等において、自主性を発揮し、協働性を養う。	児童主体の児童会議、学級活動等において、自主性を発揮し、協働性を養った。A: できた90%以上 B: できた80%以上	児童主体の児童会議、学級活動等において、自主性を発揮し、協働性を養った。A: できた90%以上 B: できた80%以上	児童主体の児童会議、学級活動等において、自主性を発揮し、協働性を養った。A: できた90%以上 B: できた80%以上	B	児童主体の児童会議、学級活動等において、自主性を発揮し、協働性を養った。A: できた90%以上 B: できた80%以上	B	自治・自主の精神の育成。
	【豊かな心の育成】 言葉大切にしたいや、道徳教育、人権教育、キャリア教育、読書活動の実践を図り、豊かな心の育成を図る。	道徳推進	(成果指標) 重点内容項目を各学年で設定し、対話を通して自分自身の考えを見える化する場をもつ授業を実践している。	児童が自分の考えや生活をよりよくしようという思いを持つ授業を実践した。A: 90%以上 B: 80%以上	児童が自分の考えや生活をよりよくしようという思いを持つ授業を実践した。A: 90%以上 B: 80%以上	児童が自分の考えや生活をよりよくしようという思いを持つ授業を実践した。A: 90%以上 B: 80%以上	B	児童が自分の考えや生活をよりよくしようという思いを持つ授業を実践した。A: 90%以上 B: 80%以上	B	豊かな心の育成。
4 体 健 やかな 身体 の育 成	【向上心をもって努力する児童の育成】 粘り強く取り組むとする心を育てるために、目標を立て、努力を要ねようとする態度を養う。	保健体育	(成果指標) 粘り強く取り組むとする心を育てるために、目標を立て、努力を要ねようとする態度を養う。	体力向上のめあてを達成すること。できた。A: 90%以上 B: 80%以上	粘り強く取り組むとする心を育てるために、目標を立て、努力を要ねようとする態度を養った。A: 90%以上 B: 80%以上	C	粘り強く取り組むとする心を育てるために、目標を立て、努力を要ねようとする態度を養った。A: 90%以上 B: 80%以上	C	向上心をもって努力する児童の育成。	
	【安全意識の向上】 交通安全、防災安全、災害安全の取組を推進し、安全意識を高める。	保健体育	(成果指標) 安全意識が定着している。	安全意識が定着している。A: 90%以上 B: 80%以上	安全意識が定着している。A: 90%以上 B: 80%以上	安全意識が定着している。A: 90%以上 B: 80%以上	A	安全意識が定着している。A: 90%以上 B: 80%以上	A	安全意識の向上。
	【健康な心身の育成】 メディアコントロールの早期取り組みを行い、よりよい生活習慣の確立に必要なことへの理解につなげる。	保健体育	(成果指標) 基本的な生活習慣とメディアに関する指導を行い、よりよい生活習慣の確立に必要なことへの理解につなげる。	健康な心身の育成ができた。A: できた90%以上 B: できた80%以上	健康な心身の育成ができた。A: できた90%以上 B: できた80%以上	健康な心身の育成ができた。A: できた90%以上 B: できた80%以上	B	健康な心身の育成ができた。A: できた90%以上 B: できた80%以上	B	健康な心身の育成。
5 地域 の 連 携	【コミュニティの充実】 GSDとの連携を密にし、活動をより一層充実させることで、地域との連携・協働を推進する。	教頭	(成果指標) GSDとの連携を密にし、活動をより一層充実させることで、地域との連携・協働を推進する。	GSDとの連携の機会。A: 計画的に持つことができた B: ほぼ計画的に持つことができた	GSDとの連携の機会。A: 計画的に持つことができた B: ほぼ計画的に持つことができた	A	GSDとの連携の機会。A: 計画的に持つことができた B: ほぼ計画的に持つことができた	A	コミュニティの充実。	
	【保護者との連携】 保護者、PTAと連携し、よりよい家庭学習の確立に努める。	教頭	(成果指標) 保護者、PTAと連携し、よりよい家庭学習の確立に努める。	保護者、PTAと連携し、よりよい家庭学習の確立に努めた。A: できた90% B: できた80%以上	保護者、PTAと連携し、よりよい家庭学習の確立に努めた。A: できた90% B: できた80%以上	保護者、PTAと連携し、よりよい家庭学習の確立に努めた。A: できた90% B: できた80%以上	B	保護者、PTAと連携し、よりよい家庭学習の確立に努めた。A: できた90% B: できた80%以上	B	保護者との連携。
	【ふるさと教育の充実】 地域の「ものごと」のよさに気づき、いかにそのよさを育む。	教頭	(努力指標) 地域の「ものごと」のよさに気づき、いかにそのよさを育む。	地域の「ものごと」のよさに気づき、いかにそのよさを育んだ。A: 取り組めた90% B: 取り組めた80%	地域の「ものごと」のよさに気づき、いかにそのよさを育んだ。A: 取り組めた90% B: 取り組めた80%	地域の「ものごと」のよさに気づき、いかにそのよさを育んだ。A: 取り組めた90% B: 取り組めた80%	B	地域の「ものごと」のよさに気づき、いかにそのよさを育んだ。A: 取り組めた90% B: 取り組めた80%	B	ふるさと教育の充実。